

異文化コミュニケーション研究科教育課程編成の方針

■博士課程前期課程

本課程では、学位授与方針に記載した能力を身に付けるために、次のような方針にもとづき、教育課程を編成している。なお、これらの教育課程を通じて得られる学修成果は、科目ごとに定める評価基準および修士論文審査基準によって評価する。

1. 異文化コミュニケーション学および関連領域（異文化コミュニケーション研究、言語コミュニケーション研究、グローバル・コミュニケーション研究、通訳翻訳コミュニケーション研究）の理論的及び経験的知識を理解し、適切に活用するために、「領域共通選択科目」（修了要件6単位）として各専門領域についての「基礎論」および「研究基礎論」を設置するほか、「領域選択科目」（修了要件14単位）を設置している。
2. 現代社会が直面する文化、言語、価値観の多様化、異なるものの中で起こる諸問題について、その背景の理解や解決、多文化共生社会の実現をめざし、批判的な問題意識をもつことができるよう、選択科目として「領域選択科目」を幅広く履修できるように設置しているほか、他研究科および「平和・コミュニティ研究機構」開講科目についても、選択科目として履修できる。また、学術的な研究課題を設定できるようにするために、1年次より正・副の指導教員を定め、1年次に「研究指導演習」（4単位）、2年次に「修士論文指導演習」（4単位）を設置し、うち6単位を必修単位として定めている。
3. 研究課題に取り組むために適切な研究方法や調査方法を用いることができるようにするために、「領域選択科目」に、「調査研究方法論」などの科目を配置している。
4. 多文化、多言語が尊重される社会に寄与する研究を行い、その成果を口頭および論述をとおして論理的に説明ができるようにするために、2年次に必修科目として修士論文指導演習を配置し、修士論文作成に向けて指導している。在学3学期目に中間報告会、本提出の2か月前に仮提出、仮審査を行い、本提出後、最終試験（口頭試問）により審査する。
5. 国内外の行政機関、NPO や NGO、国内外の研究・教育機関などで、専門的知見と能力を適切に活用し、また倫理的配慮をもって、高度専門職業人として活躍できるようにするために、専門職をめざしたプログラム、カリキュラムを構築している。英語教員、日本語教員、国際協力専門職を目指すためのカリキュラムは履修モデルを提示している。「会議通訳者養成プログラム」、「翻訳専門職養成プログラム」においては、必修科目（各プログラムにおいて7科目）および選択科目を設置し、プログラムを修得したのものには修了証を授与している。「TESOL プログラム」についても、履修すべき科目を定め、修得したのものには修了証を授与している。

■博士課程後期課程

本課程では、学位授与方針に沿って、未知の課題を探求し、分析的な思考をもとに新たな知見を切り拓くことのできる「行動する研究者」として自律的な研究を行うことができるよう、以下のとおり教育課程を編成している。なお、これらの教育課程を通じて得られる学修成果は、科目ご

とに定める評価基準および博士論文の審査・最終試験を通じて評価する。

1. 未知の課題を探求し、分析的な思考をもとに新たな知見を切り拓くことのできる「行動する研究者」としての力を身に付けるために、1年次より、正・副の指導教授のもとで、「研究指導」(A~D)を履修し、研究を行う体制を整えている。
2. 先端的な専門性に力点を据えつつ、異文化コミュニケーション研究、言語コミュニケーション研究、グローバル・コミュニケーション研究、通訳翻訳コミュニケーション研究の4分野に跨る包括的なビジョン、フィールドワーク、実験、調査などを含む高度な研究能力を備えた研究者としての能力を身に付けるために関連分野研究科目(修了要件6単位)を設置し、研究領域と関連する領域科目を履修できる。
3. 大学その他の教育・研究機関で教育者、研究者として活躍できる能力を身に付けるために、学生は正・副指導教授の指導のもとで博士論文を作成する。毎年、研究計画書、研究報告書の提出を義務付け、進捗報告会を設けているほか、博士論文提出に際しては、2編以上の審査論文の公表、1回以上の学会発表、その他の業績を公表、発表していることを条件としている。博士論文提出希望者は、博士予備論文提出願を出し、博士論文の99%まで仕上げた博士予備論文を研究科に提出する。
4. 国内外の行政機関、NPO や NGO、国内外の研究・教育機関などで、専門的知見と能力を適切に活用し、また倫理的配慮をもって、高度専門職業人として活躍できる能力を身に付けるため、指導教授と相談のうえ、博士課程前期課程その他の科目を履修することができる。